



2008年度2学期木曜1時限
「哲学基礎B」
「認識するとはどういうことか？」

第13回講義(2009年1月15日)

§ 13 内在主義の続き: 整合説

§ 14 講義のまとめ

模擬試験問題

§ 13 内在主義(続き)

復習: 内在主義の分類

- 1、信念論的で内在主義的な基礎づけ主義
(**doxastic internalistic foundationalism**)
- 2、非信念論的で内在主義的な基礎づけ主義
(**nondoxastic internalistic
foundationalism**)
- 3、整合説 (coherentism)

基礎付け主義と整合主義

■ 内在的基礎付け主義と内在的整合主義

内在主義の立場をとるとき、範囲を信念にかぎっても、あるいは非信念的認知状態に拡張しても、知を基礎付けるということは不可能でした。

■ そこで登場するのが、基礎付け主義 (Foundationalism) を放棄して、整合主義 (Coherentism) をとることです。

整合主義 (整合説) Choherentism

- **整合主義**とは、
信念が正当化されていることを、他の信念によって究極的に基礎付けられることに求めず、
 - ・他の信念(や認知状態)と矛盾しないこと(両立すること)
 - ・他の信念(や認知状態)と論理的な導出関係にあることなど、ゆるい関係を考える立場です。

整合説の擁護と問題点

(擁護)我々の言語の外部に出られない。

我々の言語に依存する仕方では、世界には何が存在するのか、世界はどのようになっているのか、について語りえない。

(問題点)整合的な理論は、複数ありうる。その中でどれを選択するかをどのように決定することが出来るのか。その選択の基準としては、**プラグマティズム(pragmatism)** (様々な意味での有用性を尺度とする選択)が採用されることが多い。

§ 14 講義のまとめ

- 1、知識の分類
- 2、ミュンヒハウゼンのトリレンマ
- 3、論理学・数学の知識について
(アプリアリな知識について)
公理主義
規約主義のパラドクス

- 4、アприオリな知識と経験的知識

- 5、ロックの経験主義

 - 単純観念と複雑観念

 - 第一性質と第二性質

- 6、観念論と实在論の論争

■ 7、心の哲学

二元論Dualism

一元論Monism

消去主義

還元主義

非還元的一元論

(デイヴィッドソンの非法則的一元論)

・クオリアの説明の困難

・志向性説明の困難

8、JTBとゲティア問題

- ・古典的な知識の定義
- ・ゲティアの反例

9、正当化の外在主義

- ・知識の因果説によるゲティア問題の解決
- ・逸脱因果の問題とドレツキによる解決

10、知識の正当化の内在主義

(1) 信念論的基礎付け主義

ミュンヒハウゼンのトリレンマ

(2) 非信念論的基礎付け主義

「所与の神話」批判

(3) 整合説

プラグマティズム

認識論と心の哲学

- 内在的基礎付け主義
- 内在的整合主義
(心身問題についての非還元主義と結びついている)
- 外在的基礎付け主義
(心身問題についての物理主義と結びついている)

模擬試験問題

- 1、古典的な知の定義を説明し、その問題点をできるだけ詳しく説明してください。
- 2、心の哲学において、クオリアに関する議論を説明してください。
- 3、知識の因果説を説明してください。
- 4、ミュンヒハウゼンのトリレンマを説明してください。